

II 校内研修

1 研修主題及び設定の理由

～研修主題～

主題 確かな学力を身に付けた生徒の育成

副主題 ～活用する力を伸ばし深い学びにつながる課題の工夫～

生徒の実態との関わり

- ・生徒同士で課題について考えを伝え合い、そこから深めたり広めたりして意見をまとめていくことがなかなかできない。
- ・今までの知識や判断材料を使って総合的に考えたり論理的に思考したりする能力が不足している。
- ・思考するための知識や技能の定着が充分とは言えない生徒がいる。
- ・自主的に課題を見つけ自ら学ぼうとする意欲をさらに高めたい。

指導の在り方との関わり

- ・既習事項や基礎的・基本的なことを活用し、思考力・表現力を伸ばすために協動的・活動的な学びを授業の中で行ってきたが、ペアやグループ、一斉指導の中で生徒同士の意見や考えが深まっていくようにすることがなかなかできなかった。
- ・基礎基本をしっかりと定着させていくとともに、活用する力、思考力、表現力を含めた総合的な学力を身に付けさせていく必要がある。

2 研修の経過

共通実践する手立て「活用する力を伸ばし深い学びにつながる課題の工夫」に着目した研修経過

指は、指導案検討 **授**は、研究授業・授業研究会

	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4.16	・校内研修推進委員会 (今年度の校内研修の方向性の検討・確認)	○昨年度までの取り組みと生徒の実態を踏まえ研修の方向性を考える。 ・確かな学力を身に付けた生徒の育成をするために、活用する力を伸ばすための授業改善を今年度はさらに一歩進めていく。
4.22	・昨年度の取り組みの成果、今年度の校内研修の方向性についての共通理解	○研修主題や内容について共通理解を図る。 ○グランドデザインや「個人研究テーマ」「具体的な手立て」についての確認 ・今年度の研修の方向性と研修主題、副主題、共通実践する手立てを全体で確認することができた。
5.20	・ 授 指導主事 訪問A	○研修主題や個人研究テーマにそった授業実践と個別指導 ・「活用する力を伸ばし深い学びにつながる課題」について、特に深い学びについて職員間の共通理解を更に推進し、各教科等の活動的協動的な学びの精度を高め確かな学力の向上に繋げていく。

5.27	<p>・指導主事訪問を受けて校内での授業研究の進め方についての共通理解</p> <p>・生徒の実態把握のためのNRT検査の結果分析</p>	<p>○A訪問を受けての振り返りと今後の校内研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改めて共通理解を図り、先生方の授業力の向上と積み上げのある校内研修をし、今後も組織的な研修をしていく。 ・副主題に掲げている深い学びについて、先生方がより具体的な生徒の姿を捉えていくことが大切。深い学びがどのようなものなのか、イメージをしぼって共通理解を図った上で、研修を進めていく。 ・研修を進めていく上で、単元の構成の工夫を合わせて行っていく。 ・NRTの分析結果をもとに、生徒の実態に合わせて授業改善や個に応じた補充学習などを行っていく。
6.17	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会 ①</p>	<p>○本時のねらい、授業デザインについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で深い学びを行うにはどうすればよいか。既習事項を合わせる工夫。 ・協同的な学びの場面において、生徒同士の学びをさらに活性化させるにはどうすればよいか。座席、発問の工夫、ペアやグループの工夫など。低位の生徒に応じた指導について。
8.27	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会 ②</p>	<p>○本時のねらい、授業デザインについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の設定の工夫が深い学びにつながっていたかどうか、研修の検証となるように課題の難易度や深め合うための手立てを工夫していく。
9.24	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 校内研修推進委員会・B訪問 指導案検討①</p>	<p>・校内研修のテーマにそって、その検証となるような単元構想、授業展開を考えていく。深い学びとなるような課題設定の工夫、手立て。</p>
10.7	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会 ③</p>	<p>○本時のねらい、授業デザインについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説、実験ともにスムーズであった。振り返りを個人でまとめることで考えがより深まった。さらに課題を工夫するとしたら…。 ・作者の思いを歌詞だけでなくリズムや強弱などの音楽要素から考え、パートごとから2グループに分けて意見交流したことで個人の気づきが深まった。歌う、聴き合う、練り上げるとなるとさらに深まっていく。
10.15	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 校内研修推進委員会・B訪問 指導案検討②</p>	<p>○本時の展開、課題の設定についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想させる生徒の反応や学びが深まった姿を具体的にしておく。
10.29	<p>・<input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 B訪問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を生かし授業の質を高め、実践に生かすことができている。さらに今後も生徒の変容をとらえていく。 ・資料の工夫、ICTの活用がなされていた。 ・単元を貫く課題が明確になっていた。また学びが深まった生徒の姿が明確になっていた。今後は単元のまとめをしていく。 ・各教科の特質に応じて単元の課題を設定をしていく。生徒の気づきや思いを大切に。

		<ul style="list-style-type: none"> ・活用する力や深い学びについて、単元を通してねらいとする生徒の姿を明確にしてあることが大切である。 ・課題を設定するときに条件をつけてみる工夫もできる。
--	--	---

11.18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授 授業研究会 ④ 	<p>○本時のねらい、授業デザインについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文主人公視点ではなく、エーミールの視点でリライトさせたことで一生懸命書くことができた。(課題の設定の良さ) 文章が長い時間がかかった。ジャンプ課題「文章に書かれていない気持ちを考えさせる」・課題発見型、試しの活動(はばプラ)、単元の導入で深める授業を行った。単元を通して課題を追求していく。単元の導入(試しの活動)における活用する力、深める授業(友達との比較、教科書やモデル文→よりよいものに)
12.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授 授業研究会 ⑤ ・研究紀要(川場の教育)の原稿作成成分担 	<p>○本時のねらい、授業デザインについて検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイングを通して断りにくい状況でもしっかり断ること、相手の気持ちを考え断る方法を考えることができた。 ・規則も大切であるが、科学的な根拠(健康)についての理解をより深められるように考える視点を与える。(課題の設定)
1.27	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要(川場の教育)の原稿検討 ・職員アンケート調査の実施と校内研修のまとめにおける検証と確認 	
2.25	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の取り組みの総括 ・次年度の研修に向けた現状と課題の把握・分析 	CRTの結果に基づく補充指導
3.16	<ul style="list-style-type: none"> ・研修のまとめ・来年度の校内研修の方向づけと確認 	

○管理職による授業参観
○研修主題、個人テーマに基づく授業実践

※その他の研修

- 7.16 人間関係づくりに関する研修/Q-Uの結果分析とSCによる講話、生徒理解と情報交換
- 7.25 安全に関する/不審者避難訓練(スクールサポーターとの確認事項)、子どもの安全避難、先生方の被害防止、警察(消防)などへの通知

3 研修の内容

(1) 具体化した目指す生徒像

各教科における既習の知識や技能を活用して主体的に課題に取り組み、考え、判断し、表現することができる。

(2) 具体化した目指す生徒像を達成するための共通実践する手立て

- ・既習事項が活用でき活動的、協同的で深い学びとなるような課題や場面設定、発問の工夫をする。
- ・活用する力を伸ばす場面において、個に応じた活用のさせ方の工夫をする。
- ・協同的な学びの場面において、深い学びとなるように生徒一人一人が考えをもち多様な意見が出されるような課題や場面設定、発問の工夫をする。

成果

- A 訪問をはじめとし、一人一授業の授業研究会、B 訪問などを重ねながら校内研修のキーワードである「課題の工夫」「活用する力」「深める」について議論を交わし、職員全体で共通理解を図りながら研修を行うことができた。また、共有できたことを日々の授業実践に生かしたり、次の一人一授業の授業者へつないだりして、実践、研修を積み重ねることができた。
- 各教科において、「深い学び」「学びが深まった生徒の姿」とはどういうことか、授業デザインの中で表記したり、授業研究会の中で具体的な生徒の姿を職員全体で考えたりすることができた。
- 各教科で、一授業単位ではなく単元を通して「活用する力」を伸ばすための計画、構想を意識して授業実践を行うことができた。
- 課題を工夫することによって、生徒が主体的に学習に取り組み（活動的な学び）、ペア・グループ・学級全体での対話が生まれ（協同的な学び）、それが課題を解決していく上で深い学びにつながっていくことを、実践を通して実感することができた。
- 課題の工夫に視点を当てて教材研究をしたことによって、思考力や表現力を含めた総合的な学力（活用する力）を身に付けさせていく授業作りを行うことができたので、一問一答の様な形ではなく課題をじっくりと考え解決する生徒の姿が数多く見られた。

(2) 今後の課題

- 課題を工夫することで、生徒の学習が深い学び、活用する力につながっていくことが分かったが、「確かな学力」を身に付けるには、単元構想や年間計画のように継続的、長期的な視野をもって、各教科のグランドデザインにおける目指す生徒像をねらいとした授業実践を継続していく必要がある。また、より深い学びとするには課題を工夫するだけでなく、生徒からの意見や考えを引き出したり、まとめたりつないだりする教師の発問や技量、教材研究の深さが必要となる。
- 単元の導入などで「深い学び」や「活用する力」をつけるための授業をする際には、どのような課題の工夫や手立てがあるのかを実践を重ねながら各教科で今後も検討していけるとよい。
- 「活用する力」を伸ばすためには、各教科の基本的な知識・理解、技能をやはり大切にする必要があり、生徒がこれからの社会を生きるための「確かな学力」を身に付けられるように、C R T、N R Tなどの客観的なデータや日々の生活での生徒の姿を多面的に捉えながら今後も授業実践を重ねていきたい。